

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501061		
法人名	有限会社 トータル・ケア・サービス田原		
事業所名	グループホーム あしたば	ユニット名	
所在地	803-0186 福岡県北九州市小倉南区新道寺396		
自己評価作成日	平成28年10月13日	評価結果市町村受理日	平成28年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成28年10月24日	評価確定日	平成28年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

来春で開設から15年となる。これ迄に約50名の個性豊かな方々のお世話をさせていただいた。開設から数年は要介護1～3の方が殆んどであり、入居者さんが共同で何かを行なうことも多かったが、現在は要介護3～5の方の新規入居が多くなり、以前にも増して個々の入居者さんに応じた個別対応が必要となった。しかし、一般内科と神経内科、ふたつの協力医療機関との連携を緊密にすることで、入居者の方々のQOLを昂めて、ターミナルケアまで実践している。また、勤続3年以上の職員が常勤換算で約60%を超え、定年後再雇用に応じてくれている職員も2名居ることも、入居者さんの安心に繋がっていると自負している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームあしたば”のパンフレットには、「笑顔と笑顔でおつきあい」と書かれており、日々の生活でも「笑顔と笑顔」の生活が送られている。施設長の願い「入居者の尊厳を大切に」「感謝の心で」等をスタッフも心から共有し、入居者の日々の喜怒哀楽と共に、行動の背景にも目を向けた温かい関わりを続けている。意思疎通が困難な方もおられ、表情やしぐさを丁寧に観察し、真の願いを把握できるように努めている。24時間体制の医療連携も行われ、気になる変化は医師等に報告し、指示を頂いている。地域の方との交流も深めており、地域の方から頂いた梅で梅シロップを作られたり、ホーム主催の餅つき会には近隣の保育園児が訪問して下さり、地域の方や家族の方々も協力して下さっている。28年から小学生との交流も始まり、職員の企画で車椅子体験等も行われた。ボランティアの方が影絵劇を演じて下さり、南京玉簾や皿廻し等も参加者全員で楽しむ事ができた。「人は宝なり」と言う施設長のお言葉通り、全ての人の「尊厳」を大切にされたケアが行われているホームであった。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、日常のケアやケア・ミーティングに於いては、常に理念を意識したケアを実践し、且つ、実践すべく前向きな討議を行なっている。	馴染みの職員が多く、新人職員にも丁寧な指導が行われている。意思疎通が難しく、車椅子を利用する方も増えている中、スタッフ全員が入居者の方々の「今、出来ること」「まだ出来ること」を考えている。温かい寄り添いの中で、入居者の有する能力を引き出されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方々や町内会・消防団の方々との交流は勿論、中学2年生の職場体験学習や小学2年生の教材として来訪していただいている。地区や町内の文化祭にも作品展示参加。保育園とも恒例の餅つきや運動会等の交流が続いている。	28年1月、地域の新年祝賀会に施設長が初めて参加し、地域の方や校長先生等と交流する事ができた。子供110番を設置し、児童21名が入居者と触れ合う機会ができ、車椅子体験を行う事もできた。竜光保育園卒業の児童もおられ、小学生になって再会する機会にもなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設者代表等が地域行事や民生委員会等に参加させていただき、認知症の方々の対応方法や介護保険についてお話をさせていただいている。また、これらに依る問合せにも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、これまでのメンバーに加えて介護サービス相談員の方も参加して下さるようになり、入居者さんの日常生活やイベント等についてのアドバイスをいただき、実践し、日々のケアの向上に活かしている。	家族会と合わせ、年2回は日曜日に開催している。ホームの取り組みや実状をご理解下さり、「介護職員の力のみで補えないところは、ボランティアの方に相談してみても？」等のアドバイスを頂いた。外部評価結果も報告し、災害対策に関する意見も頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々のケアの実践方法やイベントの開催、或いは介護保険に関しての質問や疑義のあったときには、直ちに連絡を取って対応していただくなど、連携をとりながらの協力して、連携をとるように取り組んでいる。	地域包括の方からも適宜アドバイスを頂き、空室が生じた時は入居希望者のご紹介をお願いしている。マイナンバー制度の不明点等も介護保険課等に相談し、アドバイスを頂いている。地区の市民センター長から認知症等の研修の相談があり、協力医を講師としてご紹介する事ができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	病院で身体拘束されていた方が、入居後は通常生活を送っており、身体に限定せず「一切の身体拘束を行わない」ケアに取り組んでいる。しかし、報道されている悲惨な事件事故等を防止する目的で、玄関等に必要最小限の施錠はしなければならず。門扉に鈴を付けて、不審侵入者の早期発見に努めている。	日々の感情を把握し、原因分析(睡眠、排便等)も行い、医師や薬剤師等の指示も頂いている。転倒予防のための見守りと共に、ご本人と家族の許可を頂き、フットセンサーを使用する方もおられ、すぐに訪問できるようにしている。ご本人もベッド上に座り、待って下さっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は、新聞記事等を題材とした内部研修や、外部研修を受けた職員からの報告会などで、虐待防止の徹底を学び、見過ごすことがないように業務日報等で報告している。また、入居者のご家族等にも啓発している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員は、外部研修で学んだ職員からの報告会で理解を深めるように努めている。また、当該内容の小冊子を常備して、該当しそうな入居者さんの御家族等関係者に、この制度を活用できるような支援を促進している。	入居時に制度の説明を行っている。必要に応じて弁護士と司法書士等の紹介ができる事を説明すると共に、施設長と管理者が制度の必要性の確認を行っている。以前、入居された方が後見人(司法書士)を利用されており、スタッフも権利擁護の制度を勉強する機会になった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設以来継続して、入居契約の締結・解約・改定等については、入居希望者本人との面接、御家族等との面談・聞き取りと説明を詳細且つ丁寧に行ない、お互いの不安や疑問を払拭してから、契約書や同意書を交わしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内相談窓口や御意見箱を設置し、公的相談窓口や介護サービス相談員の来訪日を告知している。また、運営推進会議や家族会でも自由に忌憚ない御意見や御提案をいただける環境で、これらを運営に反映している。	入居の相談の時点から、家族の方々の悩みや不安などをしっかり傾聴し、少しでも精神的負担を軽減できるよう、誠意を持って対応されている。入居後も、面会時や電話、担当者からの手紙等で暮らしぶりを報告し、要望を伺っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設者代表や管理者は、全職員から運営に関する意見・提案を聞くように心掛けており、適切な人事考課で職員の向上心を高めることができるよう努めている。	26年度から勤務終了時に「業務日報」を記入している。仕事内容の振り返りと共に、連絡・相談・提案等も記入できている。職員の意見を大切にされており、物品購入等は施設長等が検討し、管理者や事務長等と一緒にシフト等に関する検討も行われ、日々の業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「人は宝なり」……開設者代表や管理者は、全職員から運営に関する意見・提案を聞くように心掛け、適切な人事考課で職員の「やる気」を高めることができるよう努めている。また、これらを給与の改定に反映させるべく勘案中である。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用に際しては、介護職には適さないと思われる一部の団体関係者を除いて、性別・年齢等を理由に対象から除外することはない。また、特技等を發揮し、上位資格を取得できるような支援体制をとり、個々の職員が生き生きと就業できるように配慮している。	職員が生き生きと働けるよう、一人ひとりの得意な分野で力を發揮して頂いている。資格取得にチャレンジしている方もおられ、研修の参加機会も増やし、休み希望も叶えている。全スタッフが協力し、より良いチームが作られている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「年寄り笑うな行く道ぞ」……どんな入居者さんにも、今より、遥かに生き生きと輝いていた時代(とき)があり、今は、その時代の疲れを癒しているのだと考えて、全ての入居者さんを「人として」更に尊重し、敬うように啓発している。	施設長や管理者は、「尊厳」「感謝」の視点を職員と共有している。有する能力を丁寧に把握すると共に、「自分の事は自分でしたい」という方にも、適度な距離感を持って接している。ご自分の世界やプライドを受容し、尊重するようしており、スタッフも日々学びを深めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアこそが「介護力」の具現であるとして、個々の職員の職務能力を把握し、新任者研修と年間予定による内部研修を充実させ、外部研修を受け易いように配慮して、最良のケアを実践することが出来るよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の入居者さんと職員を、相互に、主催するイベントに招いて交流している。また、頻繁にはないが、入居希望者の紹介や困難事例の相談等も交わして、ケアの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご家族やケアマネジャー、医師や相談員などから情報を収集し、必ず、本人と面談をして、安心して入居できるよう関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談の時点から、ご家族等の悩みや不安などをしっかりと傾聴し、少しでも精神的負担を軽減できるよう、誠意を持って対応しており、利用開始前から信頼関係を築くことが出来るよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に詳細に聞き取りを行い、医療連携体制を整えていることを説明した上で、支援内容の見極めを進めている。また、医療や他の介護サービスを含めて、本人に適切な支援方法を選択できるような説明も行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方が、「何も出来なくなった。情けない。」などと心的負担に思うことがないように、少しでも出来る事に着目し、時には教えていただきながら、相互支援の関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の様子を、手紙や電話、来訪時に伝えている。入居時や家族会の時には、「家族が中心となって、介護職員と共に入居者を支えていく」ことの重要性を繰り返し説明し、協力していただいている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出やご家族等の来訪を推奨し、遠方などで来訪が難しい方とは、電話で馴染みの関係が途切れないように支援している。また、イベント等にお誘いし、いつでも気軽にお越しいただけるようお勧めしている。	家族にも生活歴を教えて頂き、センター方式に記入している。家族と菩提寺に行かれる方もおられ、外出時は食事や排泄等のケア内容を再度説明し、外出先で困らないように支援している。知人の方がホームに来て下さり、居室で過ごされている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全スタッフが入居者の個性を把握して、意思を尊重し、ドライブや体動レク等への声かけでは相性等に配慮して、相互に関わり合い、支え合って孤立しないような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の退居後も、ご家族等が困った時には連絡をくださるようご案内をしている。また、ご家族の許可があれば、退居後の移転先に面会に伺うなど、入居中に培った本人やご家族等との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者方の言動を注意深く観察し、意思疎通の困難な方の思いも把握するように努めている。また、ご家族等からも情報収集をして、希望や意向を把握するように努めており、これまでの暮らしぶりを出来るだけ変えないように支援している。	ご本人がさり気なく発した言葉や表情、行動に秘めている思いを汲み取るようにしている。意思疎通が難しい方は、声のトーンから痛みや痒み、排泄(尿意や便意)などを推測し、“本当に伝えたい思い”を探り続けている。報連相ノートで職員間の情報共有をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の言動や表情などを注意深く観察し、ご家族等から聞き取りをした生活歴や馴染みの暮らし方等を把握して、センター方式に記入することで、全スタッフが情報を共有したケアの実現に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	既往歴・現病歴を把握し、バイタル・表情・言動の変化等を見逃さないよう、常に状態の変化に注意を払っている。また、入居者の日々の過ごし方や興味・関心などにも気をつけ、介護記録と申し送り票に記入して、全スタッフが情報を共有して現状を把握できるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の意向を反映すべく、積極的に情報収集を行う。計画作成担当者が中心となり、毎月のケア・ミーティングでの意見交換の中から課題点を見出し、修正や変更を繰り返しながら、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフは担当制で、定期的に担当を変更している。健康管理(栄養、水分、排泄等)と共に、新聞を読む、お茶碗拭き、洗濯物たたみ、歌を一緒に唄う等の役割や楽しみも盛り込まれている。「ホーム内を1周歩く」等のリハビリの視点も盛り込み、重点目標はホーム内に掲示している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別の介護記録に、日々の言動や表情等を本人の言葉のまま・見たままに記録している。また、介護日誌や報連相ノートでの申し送りや情報共有に努め、ケアの実践と介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、訪問マッサージ、スポーツインストラクターによる体動レク等、個々の要望に応じた柔軟な支援に取り組んでいる。また、心身状態が重度化した場合には、協力医との連携を強化して、本人やご家族等の希望に対応できる体制を布いている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域駐在所の警察官や消防署員には、巡回や訓練等で協力していただいている。消火避難訓練には、地域の消防団や近隣住民の協力・助言もいただいている。また、小・中学生の学校授業での訪問も受け入れ、近隣の保育園児とはイベントでの交流を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医・事業所の協力医のいずれか希望する医療機関を適切に受診できる。協力医との医療連携体制をとっており、週1回の看護師による健康管理も行われている。月2回の在宅診療も行われており、入居者やご家族・スタッフが医師等と気軽に相談できる関係を築いている。	近隣の医院が協力医であり、24時間対応して下さる。インスリン注射等が必要な方には週6日来て下さり、爪の処置、痰吸引等も適宜して下さる。認知症専門医との連携もあり、不要な薬は減らして下さり、症状説明も丁寧で、家族との情報共有もできている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との医療連携体制をとっており、日々の身体状況の把握により気になる点等は、協力医や看護師・薬剤師等にいつでも相談できる体制を布いて支援している。これにより、早期対応と増悪防止に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院前の本人の状態や様子を医療関係者に伝え、本人が落ち着いて治療を受けられるように支援している。また、入院中はスタッフが面会に行き、食事介助等の支援をしつつ、退院に向けての情報把握に努め、早期退院に向けて生活に支障がないように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○重度化・看取り支援について、書面でご家族等の意向を確認している。○ご家族等が中心となり、スタッフが加わるチーム体制で支援する方針であることを説明している。○医療連携体制の中で、本人やご家族等の望まれる最期のあり方を支援するように努めているが、本人の状態に応じてご家族等や主治医等と話し合い、事業所が出来る事と出来ない事をチームが納得共有した支援に取り組んでいる。	「最期はここで」と希望される方もおられ、特別な治療等の必要が無い場合は看取り支援が行われている。施設長や管理者が家族と話し合い、主治医との面談の機会も作り、終末期の理解と心の準備をして頂いている。毎日の往診や訪問看護も受けられ、家族の方々も、ご本人のお好きなもの(馒头等)を持参して下さっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故対応時に慌てずに対応できるよう、対応手順マニュアルと緊急連絡手順を作成している。また、救急教室を研修に取り入れ、消防署救急隊員による心肺蘇生法やAEDの使い方等の指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携して、昼夜を想定した消火避難訓練を、消防団員・入居者・スタッフ・近隣の方々の参加・協力で、年2回実施している。地域の方には、外に避難した入居者の安全な場所への誘導と保護をお願いしている。	事業所の裏庭にコンクリートの通路を作り、避難しやすくなっている。地域の方とも災害時の協力体制ができており、消防署員と消防団員にも消火避難訓練に参加して下さり、地域の方も訓練時に見守りをして下さっている。災害に備え、飲料水、ビスコ保存缶、軍手等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内で人格の尊重などの研修を行って意識を高めており、入居者の尊厳を損うことのないよう、指示的・否定的な言葉を使わず、思いやりのある態度で接するよう努めている。特にプライバシーに関わる内容の場合は、場所と声の大きさに注意を払っている。	“入居者の尊厳を大切にしたい”という施設長の思いはスタッフに引き継がれ、「思いやりのある心」「感謝の心」を持って、全スタッフが入居者の尊厳を大切にしたケアを行っている。入浴や排泄時も、肌の露出を少なくし、さりげなくトイレ誘導する等、羞恥心への配慮が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決して無理強いをせず、「どのように過ごしたいか」を優先している。入居者の方の言動や表情に秘めた思いを汲み取る努力をし、出来る限り本人の希望に沿えるように、例えば選択肢を示す等での自己決定を促している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の基本的なスケジュールは一応決まっているが、入居者個々の長年の習慣や希望、ペース、体調等に合わせて、無理強いすることなく、その人らしい生活を送ることが出来るように臨機応変な支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の進行等で理美容店に行くことが難しくなった入居者の方には、資格を持ったスタッフがボランティアで散髪を行っている。髪型には本人やご家族等の希望を取り入れ、いつも身ざれいでいられるように支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る範囲で、下ごしらえや盛り付け、食器拭き等、食事の準備や片づけに関わっていただいている。ご近所の方に頂いた蒔や筍等と一緒に調理し、旬の食材を味わっていただいたり、行事食や地域特産メニューも提供し、食事を楽しんでいただく支援を行っている。	管理栄養士等が調理しており、小倉祇園の頃は「夏祭りプレート」を楽しまれた。介助が必要な方もおられ、スタッフは優しく声かけし、嚙下も確認し、入居者個々のペースを大切にした介助が行われている。土筆(つくし)の皮むきや茶碗拭き等を入居者が手伝って下さっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専属管理栄養士によるバランスの良い食事を提供している。食事や水分の摂取量等に注意し、水分を摂られない方には少しでも多く飲んで頂けるものを検討し提供している。また、歯や嚥下の状態に合わせて刻み食やお粥にするなど、食べやすい形態での食事提供に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者個々に応じた口腔ケアや義歯の洗浄の声かけ・見守りをし、自分で出来ないところはスタッフが介助している。また、週に1回の訪問歯科診療でも口腔ケアをしていただき、スタッフはその指導を受けて実践している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄パターンを記録することで、入居者の排泄リズムを把握し、プライバシー等に配慮したトイレ誘導を行うように努めている。また、出来るだけ、紙パンツやおむつの使用をやめ、布パンツで過ごせるように状態を見て変更出来ないかを検討している。	トイレでの排泄支援と共に、可能な範囲で下着の着用を目標にされている。排泄のアセスメントを強化し、さり気ない声かけを行う事で、ご自分からトイレの意思表示をされるようになった方もおられる。入院時はオムツ使用の方も、下着(パッド)に変更できた方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ便秘薬に頼らないように、栄養バランスを考えた食事や水分、間食を提供し、腹部マッサージや体動レク等を勧め、定期的に排便があるように個々に応じた支援を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	十分な見守りが出来る環境で入浴していただきたく、時間帯を決めているが、希望や状況によっては、個々にそった対応を行っている。	その時の気分を見計らい、声かけのタイミングを大切にされている。入浴を拒まれる方は原因を把握し、無理強いしないようにしている。肘掛け付きの椅子を購入し、2人介助も行われ、湯船に浸かって頂くようにしており、入浴時は歌を唄い、会話も弾み、柚子湯も楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣や日々の体調等を把握し、本人の意向も尋ね、昼夜逆転しない程度に、日中も臥床時間をとっていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別処方薬確認表や受診結果報告票等で、処方薬の内容変更や増減等の情報を共有している。また、誤薬のないように、処方薬の分別から服薬の直前までに4度のチェック体制を布いており、服薬後も状態観察や薬袋管理を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き等、本人の出来る範囲で役割を担っていただいている。また、気分転換にドライブに出かけている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体力低下(特に下肢筋力)の影響により、日常的な散歩や外出は難しくなっているが、お花見などの四季折々のドライブには出来るだけお連れするように努めている。また、近隣保育園の運動会参観などの外出支援も行っている。	歩行状態や体調を見ながら、個別に「ドライブ」の距離を決めており、葛原八幡宮、東大野神社、三岳梅林、安部山公園、長野緑地、平尾台、井手浦浄水場、高塔山公園(若松区)等にお連れしている。家族の面会時には玄関まで見送りし、そのまま外のお花を楽しんで頂いている。ホーム内の歩行訓練も続けている。	車椅子を利用する方も増えており、散歩の機会は減っている。今後も体調や天候などを見ながら、少人数でのドライブを増やしていきたいと考えている。“今しかできない外出”“今しか見れないお花見等”の機会を増やしていく予定である。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、医療費などの他には、お小遣い程度の金額のみを事務所でお預かりして管理している。外出時におやつを買う等、希望に応じて、入居者が自由にお金を使うことが出来るように支援する体制を整えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分一人で手紙を書くことが難しい入居者の場合は、スタッフが傍に付き、練習をして書くことでハガキを投函できるよう支援した。また、電話がかかってきた時には、相手に現在の入居者のご様子をお伝えし、通話中も入居者が戸惑わないように、傍に付いて支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいるような、のんびりとくつろげる空間を大切に、家庭的な家具を使い、心地良く過ごせる配慮をしている。また、入居者とスタッフが作った作品やホームでのイベントの写真を掲示し、会話のきっかけ作りにも努めている。	ホームは広く、中庭を中心に一周できる造りとなっている。中庭には大正時代からの井戸があり、“つばめの巣”も複数あり、雛の成長も入居者の楽しみとなっている。リビングや廊下にはソファがあり、歩行訓練時の休憩場所になっている。和室では洗濯物をたたまれたり、冬は掘りごたつで過ごされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に居室が隣接しているため、一人になりたい時やゆっくりしたい時は、自室で過ごしていただいている。また、廊下にソファを置いており、回廊を歩いて休憩する時等に利用していただいている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具を持ち込み、今までどおり、お仏壇にお参りしていただくことで、自宅での生活との変化を少なくするように工夫している。家族の写真や思い出の品を飾ることで、落ち着いて過ごせるように工夫している。	居室の洗面台で歯磨き等がされている。お仏壇や家族の写真等の大切な物も持ち込まれ、お仏壇には職員がお仏飯等をお供えし、電気の線香やろうそくを使用する事で安心してお参りされている。家族がお花を活けて下さったり、お孫さんが書いた絵も飾られている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口には表札と目印の絵を貼り、トイレの扉には大きな文字で『便所』と表示し、入口のわかりにくいトイレには赤提灯をつけ、入居者が出来るだけ自立した生活を送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		